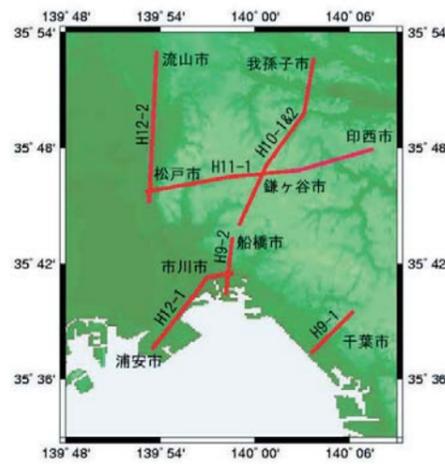


地下構造調査の結果

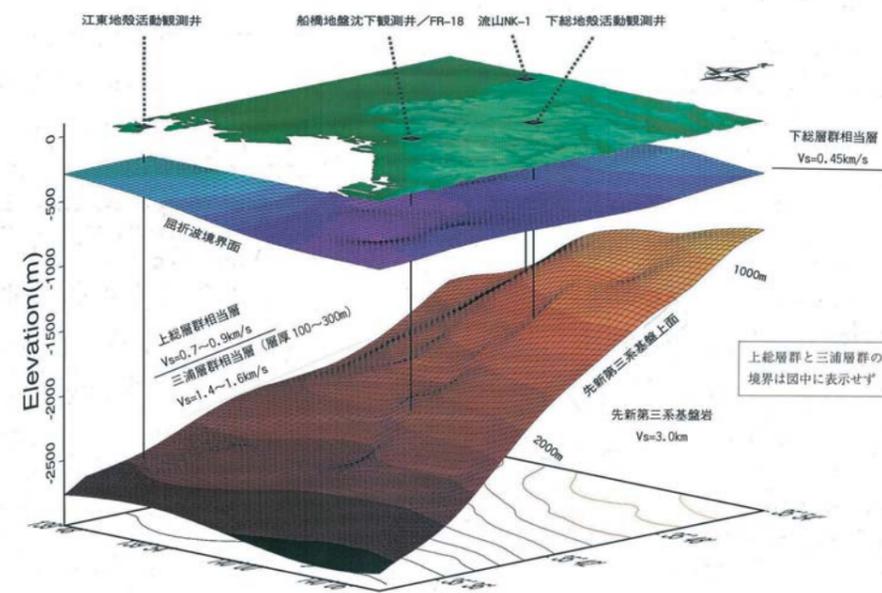
県西部地域で一番古くて固い基盤とされる地層は、三波川帯あるいは秩父帯といわれる1億年以上前の地層です。その上に、より新しい三浦層群・上総層群・下総層群と呼ばれる地層が堆積しています。

地下構造調査の結果、これらの地層の構造が詳細にわかりました。中央の図は、活断層調査の結果を含めて、反射法地震探査の深度断面図を立体的に組み合わせて表示したものです。

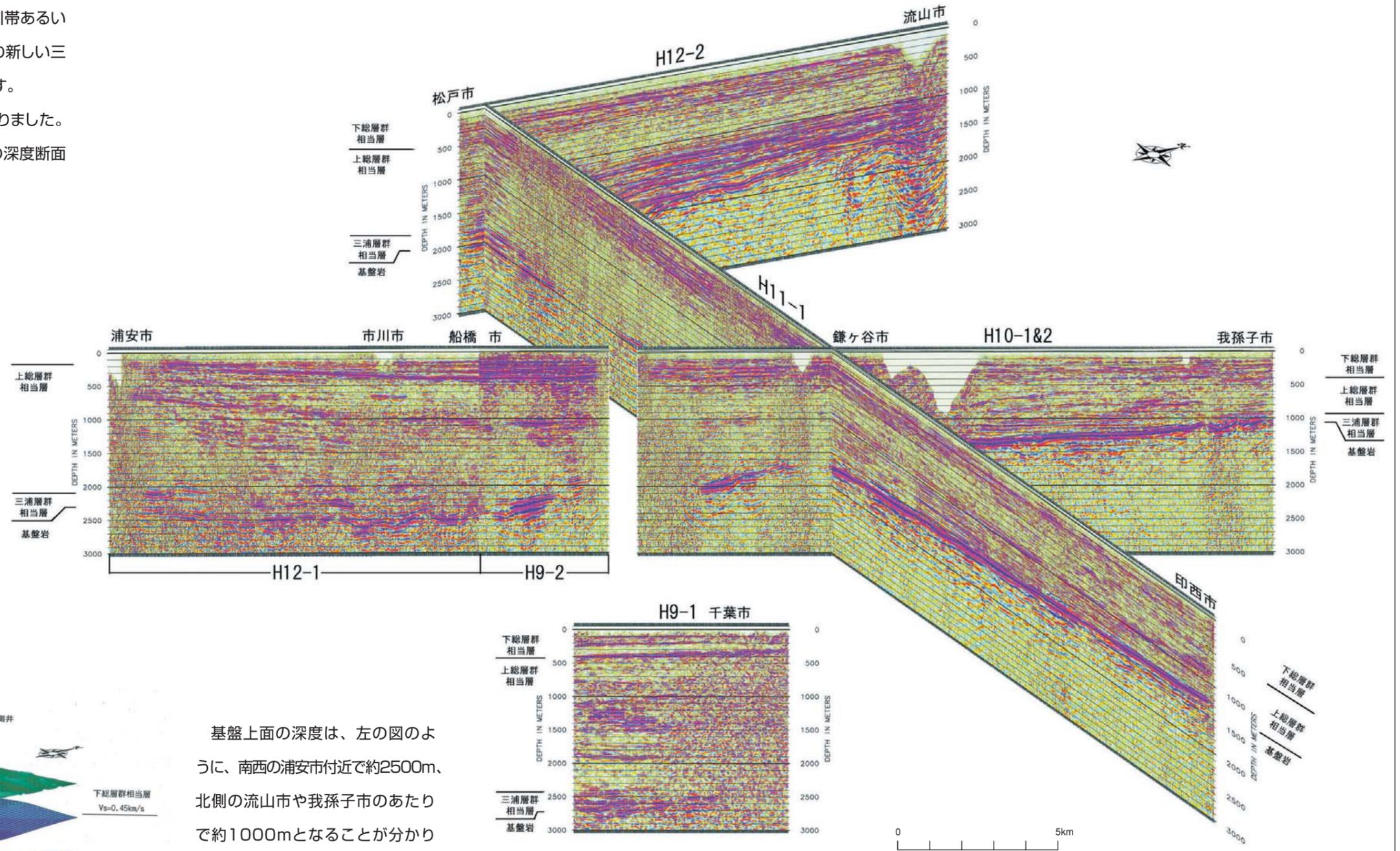


地下構造調査測線図

この地図の作成に当たっては、国土地理院発行の数値地図50m(標高)を使用した。



この地図の作成に当たっては、国土地理院発行の数値地図50m(標高)を使用した。



基盤上面の深度は、左の図のように、南西の浦安市付近で約2500m、北側の流山市や我孫子市のあたりで約1000mとなることがわかりました。地域全体では緩やかに南西方向に傾斜しています。

反射法地震探査で求められた深度構造に、微動アレー調査で求められたS波速度を当てはめることにより、三次元的な地下構造モデルを作成しました。

わかったこと

活断層調査の結果と地下構造調査の結果を合わせて、県西部地域では、活断層は見つかりませんでした。

地下構造調査の結果、当地域は、地震波の局所的な集中により大きな被害をもたらすような地下構造ではないことがわかりました。